

目的; 現在、住宅建設が多く行われ、その質の良否と向われる中で、その標準的な技術的水準を見極めるのは、緊急な社会的要求であると考えたい。本研究は、84年度に行われたパイロットハウス設計競技に於て、所定の審査を終え、建設されたパイロットハウスを対象とし、調査により欠陥を明らかにしたもので、今後のプロム住宅の性能及び技術的精度の向上に資することを目的とする。

方法; 調査時期は、泉北ニュータウンが、84年度、高島平は、85年度で、調査方法は、現地配布留置き回収法と聞き取り調査を併用した。

結果; 欠陥の件数は、泉北一戸建が、11件中7件、連続建が、10件中9件、高島平一戸建が11件中7件で、欠陥事項別の件数を見ると、結露が一番多く11件、次いで、床破損が、10件、水もれが6件、その他、施工上の欠陥、窓のサッシ、ボイラー、雨もり、トラス、階段; その他、の多項目にわたっている。以上より今後の改善の方向を明らかにした。

* パイロットハウスの検討、その1、設計チームに対する調査、849日、建学大講、その2、居住者に対する調査、849日、建学大講、その3、パイロットハウスの外観デザインの持つ特徴、850日、建学近畿支部、研報、その4、設計者と居住者の評価の違い、850日、建学大講、その5、パイロットハウスの外観デザインの特徴、その2、泉北ニュータウンと東京都高島平の場合、851日、建学、近畿支部、研報、その6、東京都高島平と大阪府泉北ニュータウンとの住宅調査の比較、851日、建学大講、その7、収樹に関して、日、建学、近畿支部、研報。